



全国約4,800校の 高校に軽音楽部を！

※現在、軽音楽部があるのは2,042校です（※2020年1月）※設置条件あり

軽音楽部の諸活動を通して 若者の成長を応援しています

軽音楽部に関する
コンシェルジュです。
どんな事でもお気軽に
ご相談ください。



特定非営利活動法人（NPO法人）
全国学校軽音楽部協会
Japan Association of School Light Music Club



全国約4,800校の 高校に軽音楽部を！

※現在、軽音楽部があるのは**2,042校**です（令和6年11月1日当協会調べ）

軽音楽部の諸活動を通して若者の成長を応援しています

1 軽音楽部を知ってもらおう

軽音楽部は、部活動としての歴史が浅く、古いポピュラーミュージックやバンドへの偏見も一部に残っており、正しく認知されていないのが現状ですが、軽音楽を通じた部活動の有意義さを学校内外へ広めましょう

2 地域や社会に貢献しよう

軽音楽部の活動は、日々の練習や演奏会などへの出演、大会やコンテストへの参加だけでなくとどまらず、音楽を通して、地域や社会貢献につながる活動をしましょう

3 自主自律した部活動を目指そう

学校教育の一環と言われる部活動のひとつとして、VUCA* と呼ばれる、正解のない時代に翔ける人間の育成を目指し、生徒自身が考えて行動する部活動を目指しましょう

*VUCA（ブーカ）とは、Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）という4つの単語の頭文字をとった言葉で、先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態を意味します

当協会の理念や活動内容にご賛同いただける方々のご寄付をお待ちしております
詳しくはこちらまで…



特別賛助会員の皆様（敬称略／順不同）

株式会社ミュージックネットワーク	ギブソン・ブランド・ジャパン株式会社
公益財団法人かけはし芸術文化振興財団	フェンダーミュージック株式会社
一般社団法人サトヤマカイギ	有限会社エムエージー
名古屋芸術大学	株式会社トップトラベルサービス
宝塚大学	株式会社福々家（モアリゾート、ホテル寺尾温泉）
日本工学院専門学校／日本工学院八王子専門学校	音楽ロッヂ ゆうげん荘
専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー	株式会社オーティーズ
専門学校名古屋ビジュアルアーツ・アカデミー	株式会社サウンドハウス
専門学校大阪ビジュアルアーツ・アカデミー	株式会社池部楽器店
名古屋スクールオブミュージック＆ダンス専門学校	

特定非営利活動法人
全国学校軽音楽部協会
keionkyo.org



■月刊 軽音楽部 VOL.81 ■創刊：平成25年12月18日（水）■新創刊：令和6年3月25日（月）■発行：令和6年11月25日（月）／第13巻12号通巻81号
■監修・発行／特定非営利活動法人（NPO法人）全国学校軽音楽部協会 JASLMC（Japan Association of School Light Music Club）
〒224-0003 横浜市中区中川中央1-37-6-405 TEL：045-913-0901 FAX：045-913-1900 E-Mail：info@keionkyo.org
■企画・編集／株式会社ミュージックネットワーク

interview



学校教育の視座

心を1つに仲間と取り組む素敵な活動……4

愛知県立瀬戸工科高等学校 校長
愛知県高等学校文化連盟軽音楽専門部 会長

村松正敏



部活動を考える

軽音楽部の活動から枝葉を広げていく……6

特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会 理事長 三谷佳之



優勝校顧問に聞く

軽音楽を「部活動」にする時に注意すべき点……8

特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会 副理事長 辻 伸介

contents

report

部活動で楽曲制作を行うことの有意義さ……10

ロック解体新書を活用しよう！……13

軽音協イベント・カレンダー……14

音楽／エンタメ業界の仕事 2024

ラジオの仕事

日本工学院専門学校／日本工学院八王子専門学校……16

映像音響の仕事

専門学校大阪ビジュアルアーツ・アカデミー……18

From Chief-In-Editor

新しい学びの場：軽音楽部とチームビルディング

音楽は個人の内面を表現する力を持つと同時に、人々を結びつける力も持っています。特にバンド活動は「チームビルディング」の縮図と言えるでしょう。選曲やパート決め、練習、そして、ステージでの演奏。これらの活動を通して、生徒たちは自然とチームワークを学びます。

例えば、「文化祭での演奏」という目標を設定した場合、メンバーはそれぞれの得意な楽器や音楽の好みを持ち寄り、話し合いを重ねます。時には、意見が衝突することもあるでしょう。しかし、その中でお互いの個性を尊重し、妥協点を見つけ、1つの音楽を創り上げていく過程こそが、かけがえのない学びとなります。

チームビルディングを通して、生徒たちは以下の力を育みます。

コミュニケーション能力：自分の考えを伝え、相手の意見を理解する。音楽という共通言語を通して、より深いコミュニケーションが生まれます。

協調性：それぞれの役割を理解し、協力し合うことで、より大きな目標を達成する喜びを味わいます。

責任感：自分の役割を果たすことの重要性を認識し、チームの一員としての責任感を育みます。

問題解決能力：練習中に生じる技術的な課題や人間関係の課題にチームで協力して解決することで、問題解決能力が向上します。

コンテストへの出場は目標達成に向けたモチベーションを高める要素の1つとして有効です。しかし、最も大切なのは結果だけでなく、目標に向かって努力する過程、つまり、チームビルディングを通して得られる経験です。音楽を通して、自己表現することの喜びや仲間と分かち合う達成感、そして、何よりも共に音楽を創り上げることで生まれる絆は生徒たちの成長を大きく後押しします。

軽音楽部は音楽を通して人間性を豊かにし、社会で生き抜くために必要な力を育む、貴重な学びの場です。これからの軽音楽部は技術指導（ティーチング）だけでなく、生徒たちの自主性を尊重し、成長をサポートするコーチング、そして、チームビルディングを促進するファシリテーターとしての役割を担う顧問の先生の存在が重要となります。音楽が持つ無限の可能性を信じ、生徒たちが音楽を通して大きく成長していく姿を私たちは見守っていきたいものです。

特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会 理事長 三谷佳之

学校教育の視座

心を一つに仲間と取り
組む素敵な活動

村松正敏

愛知県立瀬戸工科高等学校校長
愛知県高等学校文化連盟軽音楽専門部会長

愛知県では、2020年（令和2年）に愛知県高等学校軽音楽連盟が立ち上がり、2022年（令和4年）に愛知県高等学校文化連盟軽音楽専門部が設立されました。2017年から続く「愛知県高等学校軽音楽大会」も15回を超え、回を重ねるごとに盛り上がりを見せています。そこで、今回は愛知県立瀬戸工科高等学校の村松正敏校長に高等学校における部活動の意義や活動を通じて得られるもの、目指すべき軽音楽部の在り方について伺いました。

電子工学研究部の顧問をやりながらバスケットボール部の顧問も務めるなど、多忙な日々を送っていたのを覚えています。

●部活動の存在意義や役割は、どういったものがあるでしょうか…

村松…私の話になりますが、中学生の頃にコンピュータに興味を持つようになり、父が先見の明で、コンピュータを買い揃えてくれたんです。コンピュータでゲームを楽しみながら、プログラミングをすることも楽しくなり、独学ですが、少しずつ詳しくなりました。ただ、これは当時、勝手に感じていたことなのですが、コンピュータをやっている人間は「根暗（ネクラ）」（今という陰キャ）と思い込んでいました。そこで、自宅ではプログラミングを楽しんでいるけれど、学校では勉強をしながら、「運動部に所属したい！」という思いを強く抱いていました。今に思えば、運動部に所属したら「根明（ネアカ）」ではないし、「根暗（陰キャ）」が悪いわけでもなく、間違った偏見を当時

の私は思いつき持っていました。

当時は「文武両道であるべき」と考えていたので、中学では剣道部に、高校ではバスケットボール部に所属しました。大会で優勝したり、華々しく活躍するなど、何か結果を残せたわけではありませんが、剣道部で礼儀や姿勢、挨拶、所作などについて学び、バスケットボール部でも仲間と過ごし、練習に明け暮れていたのは、とても良い思い出です。剣道部でもバスケットボール部でも、顧問の先生は、その道の専門家ではなかったですが、一生懸命に生徒たちのことを考えて動いてくれていたので、感謝の気持ちでいっぱいです。時には、部員同士で喧嘩になることもありましたが、「うまくならない」「試合で勝たいたい」という気持ちは同じだったので、言いたいことを言いつつ、最後には認め合い、許し合う心を持ちながら活動していたように思います。これは普段の教室（授業）では、なかなか経験できるものではなく、部活動だからこそ得られたことの1つです。

●顧問にとって、専門的な知識はどこまで必要でしょうか？

村松…私は、あまり専門的な知識がない顧問のもとで学生時代を過ごしました。その道に詳しくて、熱心に指導してくれる先生がいたら良かったな…と思いますし、もし巡り会えていたら、嬉しかったでしょう。とはいえ、どんな先生であつても、顧問になつてくれなかったら、部活動は存在しなかったかもしれない。部活動は存在しなかったかもしれないが嬉しいですが、「そうでなければ、ダメだ」ということは論じるものではないと考えています。

●部活動での経験は将来、どのように生徒の役に立つでしょうか…

村松…直接的に役に立つものがあるか？という点、その道のプロフェッショナルになつたり、部活動で得た経験や知識を専門の分野でも活用できるのであれば、明確なものが挙げられると思いますが、

私にとってはクラスや学科を越えて、1つの目標に向かって頑張る「気持ち」の部分から得られたものが大きかったです。中学の剣道部では、同じクラスの子がほとんどおらず、他クラスの同級生ばかりでした。かえって、自分の中で切り替えて部活動に臨めていましたし、違う空間にいる感じがして、楽しかったです。学科にいたっては、私は電子工学科に所属していたのですが、部活動には機械科や

電子機械科、電気科の同級生がいました。まったく違うことを学んでいる子たちと一緒に部活動の時間を共有していたので、感性や思考が異なる同級生と触れ合える「部活動」の存在は大きかったです。それに、当時はそこまで考えていませんでしたが、剣道やバスケットボールを通じて、一生懸命になれたのはもちろん、いろいろなことを考え、行動し、学び、成長できた貴重な時間だったと思います。社会

で役立つだけでなく、間違いなく自分の人生に大きく影響を及ぼしました。時に部活動は顧問の先生に専門性があり、それが強く打ち出されてしまうと、生徒の主体性が欠落してしまうところがあると思います。私が学生の頃もそうでしたが、顧問の先生に指示されるのではなく、自分たちで考え、反省し、必死になつて取り組んだ時間や仲間というのは、かけがえない財産です。ぜひそういったものも大切にして欲しいですね。

●大会至上主義や行き過ぎた指導が問題になりますが…

村松…目標というのは、学校や部活動によつて様々です。毎日練習があつて、トレーニングが大変な部活動があれば、活動は週に2日くらいのゆつたりなペースの部活動もあるでしょう。いずれにせよ、部活動に関しては「自分には合わないな」と感じたらずめることができます。それによつて学校を退学することにはならない、任意の活動です。そういう選択も含め、生徒自身に主体性がありますし、顧問が強制するものではないはずです。不条理に肉体的、精神的に追い込んだり、痛めつけることが間違っているのは大前提として、部が掲げた「目標」に向かって、部員と指導者が一緒に向かつていく。それが「地区大会で優勝する」という学校があれば、「全国大会優勝を目指す」ところもあるわけで、どこを目指すのかはそれぞれだと思います。何事も「やり過ぎ」は良くありませんが、双方が納得した目標であれば、それに向かってみ

んなが頑張ることが大切ではないでしょうか。そこには、必ず「心（気持ち）」がないといけません。みんなの心があれば、次のステップやステージがありますし、その先につながっていくと考えています。

●軽音楽部の顧問の先生方にエールをお願いします

村松…生徒たちのために日々時間を割いていたが、ありがとうございます。大会で他校の生徒たちを目にすると強く感じるのですが、軽音楽部の生徒たちは、とても熱心なんですよね。みんなで見聞を出し合つて、何度も練習を繰り返して、本番のステージに臨んでいます。本校の生徒も、時には階段に座り込んでそれぞれのパートを練習し、日々練習に明け暮れています。青春を彩っている軽音楽に真剣に取り組んでいる表情や仕草、会話などは本当に素敵です。何かを「突き詰める」というのは根気のいることで、時間もかかります。ですが、普段の教科学習では得られない経験や時間、仲間を作ることができるのが部活動です。

顧問の先生におかれましては、時に嬉しく、歯痒く、辛く感じることもあると思いますが、最後には「満足が得られる時間だったな…」という風に感じながら、生徒たちと3年間を過ごしていたと思います。ただ、先生たちも体が資本ですので、休むべき時には休息を忘れずに、これからも生徒たちのことをよろしく願います。



部活動を考える

軽音楽部の活動から 枝葉を広げていく

三谷佳之

特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会 理事長

今を生きる若者たちは日本だけでなく、世界の未来を担う存在です。私たちは軽音楽部での活動を通して、若者の健全な育成を支援することで、将来的に彼らを担い手とする、より良い社会の実現を目指すことを目的に設立しました。私たちは全国の高等学校をはじめ、中学校や大学の軽音楽部の普及・発展を願い、活動しています。今回は、その一端をご紹介します。

青少年の人材育成への寄与

当協会では、高等学校を中心とした「部活動としての軽音楽部」の支援活動を行なっており、関東・中部・近畿北陸地方を対象にした「高等学校軽音楽コンテスト」の開催をはじめ、情報誌「月刊 軽音楽部」の発行、複数の高校を集めた「合同演奏会」や各種セミナーを定期的に開催しています。さらに、昨年度はオリジナル楽曲を広く募集し、応募のあったすべての楽曲に専門家からのアドバイスももらえ、今後の

参考にすることができ、「全国高等学校軽音楽部オリジナルソング・グランプリ」の開催をはじめ、石川県白山市にある白峰地区で「合同演奏会＋社会見学」を実施。地元の方々に演奏を楽しんでいただくなど、新しい取り組みもスタートしました。

これらのイベントや演奏会、講習会等の根底にあるのは、私たちは部活動としての軽音楽部を対象にしているため、演奏がうまいか、そうでないかではなく、「青少年を育成する」という観点です。ギターがうまく弾けたり、バンドのアンサンブルがまとまっている…といった要素の前に、これらの取り組みが、いかに青少年の人格形成や将来の社会の担い手である人材の育成につながるかを重視しています。そのため、大会や合同演奏会等を開催し、単に演奏を披露する場を作るだけではなく、上下左右に活動の幅を広げ、いかに高校生の人格形成や教養を深める一助になるか、世間一般の方々に現在の軽音楽部の様子を見ていただけるかを考え、取り組んでいます。

軽音楽部での諸活動を通じて、「ポータブルスキル」を磨くことができる

コミュニケーション



バンドはメンバー同士で様々なことを相談して活動していきます。自分の意見を伝える力、相手の意見を聞く力が育ちます

チームワーク



バンドは共同作業です。少人数でやり遂げる連帯感やチームの一員としての責任感が身につく、達成感による成長があります

クリエイティビティ



軽音楽部ではオリジナル楽曲を創作したり、既存曲を自分たちなりの演奏にするため、自ら創り出す力が育れます

枝葉を広げていく取り組み

コンテストの開催を通じて、軽音楽部（バンド）の頂点を目指す場を作ることも、当協会では、様々な取り組みで軽音楽部の裾野を広げ、世間一般への認知拡大を目指す部分も大切にしています。

例えば、小学生や中学生を対象にしたイベントの開催です。今夏に開催する「音学教室」では、音楽（ミュージック）に焦点を当ててではなく、「学」という字を入れておき、「音（サウンド）」に注目しています。「どうして音は聞こえるんだろう？」「マイク・フォンの構造は、どうなっているんだろう？」「スピーカーって何？」といった初歩の疑問を小中学生にわかりやすいように伝えるなど、

こういった部分から音楽や楽器に興味を持つてもらえ、今夏より始動します。これまでの「STEM教育」と呼ばれている教育観点に「A(ART)／芸術」が加わり、「STEAM教育」として注目されているなど、教育現場においても「芸術文化」を学ぶことが人格形成や教養を深めることにつながる…とされています。今夏の「音学教室」は夏休み期間中の実施になるため、小中学生の「自由研究」や「探究学習」の一環としての参加を期待しています。

初回の今回は、京都府の舞鶴市にご協力いただきました。市内の小中学校の生徒にチラシを配布したほか、地元の方々にもご参加いただけるように案内をするなど、軽音楽部員だけではなく、「音楽」に関心を寄せてくださる方々を集めた会にしたいと考え、準備を進めています。

音楽や芸術に国境はない

もう一つの新たな取り組みが「高等学校軽音楽文化祭 国際大会」の開催です。「音楽に国境はない」と言われますが、部活動として取り組む軽音楽部の演奏（音楽）を世界に広げていく、というのが今回の国際大会です。歴史や文化の地である京都府の中でも「海の京都」と呼ばれている舞鶴市との共催で開催する運びとなりました。

第1回大会では、中国のコンテストである「BAND CHINA」のグランプリバンドと準グランプリバンドが来日します。日本からは当協会が主催する「高等学校軽音楽コンテスト 関東大会・中部大会・近畿北陸大会」のグランプリ校（バンド）や「全国高等学校軽音楽部オリジナルソング・グランプリ」の入賞バンドが、この夏、舞鶴にやってくる！

ナルソング・グランプリ」の優秀校、開催地である舞鶴市を代表して市内の高校軽音楽部や元旦に発案した「令和6年度能登半島地震」からの復興を応援するべく、復興応援隊として石川県金沢市の高校軽音楽部が参加します。

また、単に演奏を披露し合うだけでなく、学校や部活動、地域、自国の話を紹介するプレゼンテーションの時間を設けています。他者・他校・他国の文化を学び、音楽を通じた異文化交流を図ることを目的としていることから、大会の名称を「高等学校軽音楽文化祭」としました。今回の開催実績をもとに中国をはじめ、世界各国に協力を要請し、アプローチしていきますので、第2回大会では、さらに各国からの参加があることに期待しています。

なぜ音は聞こえる？

音の速さ

マイクの仕組み

音と映像

音の3要素

音に触ろう

いろいろな効果音

小・中学生向けに音や電気、音響の仕組みを優しく解説します。保護者や一般の方の参加も大歓迎！この夏休みは眼に見えない音について学びましょう。

夏休み！自由研究／探究学習

音学教室

2024 8.21 WED 13:00-14:30

会場：舞鶴市総合文化会館大ホール
解説：NPO 法人全国学校軽音楽部協会

入場無料

お問い合わせ 特定非営利活動法人 全国学校軽音楽部協会
TEL：045-913-0901 info@nkskyo.org

NPO 法人 全国学校軽音楽部協会

関東・中部・近畿北陸大会、中国 BAND CHINA の入賞バンドが

第1回 高等学校軽音楽文化祭 国際大会

8.22 THU 10:00-12:30

会場：舞鶴市総合文化会館大ホール

入場無料

高等学校軽音楽コンテスト入賞校（関東大会、中部大会、近畿北陸大会）
オリジナルソング・グランプリ入賞校、国際音楽文化祭
舞鶴市総合文化会館大ホール

主催：特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会
公益財団法人文化芸術振興財団
後援：舞鶴市教育委員会
協力：舞鶴市文化芸術振興財団
実行：舞鶴市

お問い合わせ 特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会
TEL：045-913-0901 info@nkskyo.org

部活動運営

軽音楽を「部活動」にする時に注意すべき点

近年、軽音楽部を取り巻く環境は大きく変わってきました。しかし、いまだに軽音楽部はうるさい、遊んでいるだけ……といった負のイメージがある中、部活動の現場で生徒や顧問は何をして、何をしない方が良いのか……。軽音楽を部活動にする時の運営方法や注意点を考えてみましょう。

1 軽音楽を理解する

世界三大ポピュラーミュージックといわれるのが、クラシック、ジャズ、ロックです。ロックとは、日本でいうポップスもパンクもアイドルの楽曲もアニソンも含む広義な意味で、現在軽音楽部が演奏している「軽音楽」を指します。誤解が多いのですが、ジャズとロックはアメリカ発祥のブルースから派生した音楽で、理論や楽器の調律法などは同じものを土台としています。クラシックの延長線上にあるものではありません。違いは様々ですが、最も大きいのは「主体性」と「表現」に関することです。

基本的に、クラシック音楽の世界では作曲家と演奏家は区別されていて、演奏者や歌手は楽曲を創作することはありません。演奏者の役割は、作曲家や指揮者の意向を再現することです。また、吹奏楽は演奏する曲目こそジャズやロックですが、指揮者がいて演奏をまとめていくスタイルはオーケストラと同じです。オリジナル楽曲も作りません。

しかし、現在のポピュラーミュージックであるロックは、自分たちで演奏をまとめ上げ、演者自身が楽曲を作る場合もあります。高度な作曲術や音楽理論を知らなくても、自分の思ったことを歌詞にして好きなようにメロディを紡ぎ、メンバー同士で合奏の方向性やよし悪しを決めていきます。それは、既存曲をコピーする場合も同様です。

また、演奏を披露する場にも違いがあります。ロックのステージにはエンターテインメント性が欠かせません。自分(たち)の伝えたいことをどう表現するのかをメンバー間で話し合い、合奏やステージパ

フォーマンスに仕上げていきます。

軽音楽部は、単なる流行や持て余した若さを発散する馬鹿騒ぎなどではなく、少人数でのチームワーク(協調性)、クリエイティビティ(独創性)、エンターテイメント(表現力)といった、これからの日本人に求められるスキルを学ぶ機会がたくさんあります。まずは、顧問の先生がそれらを理解して部員に伝えていくことが、軽音楽が部活動になるための第一歩となります。

2 軽音楽部は「バンド部」でも「ロック部」でもない

軽音楽部は、バンドが集まってできているのではなく、部員がバンドに分かれて活動しているものです。バンドはチームでのコミュニケーションを学び、複数人で何かを作り上げることを学ぶ絶好の機会ですが、それだけが目的なのであればそれは「バンド部」であり「軽音楽部」ではありません。

部員全員で行う全体練習や、部活動のある日は必ず全員参加のミーティングを行うなど、「バンド練習がない部員は自由」ではなく、全員で行動する体制作りも大切です。バンドごと練習場のスケジュール管理だけを行っている、軽音楽部は単なる「無料の練習スタジオ」と化します。タダより怖いものはありません。そうなるルールを守らない部員やバンドが増え、統制を取ることがどんどん難しくなります。

生ドラムや大音量のギターアンプという、かつてのスタイルにこだわらなければ、練習場所の確保や騒音の問題も解決します。電子ドラムは音量調節もでき、ギターやベースのマルチエフェクターにはヘッドフォン端子が付いているので無音で練習ができます。「それはロックじゃない」と考えるのは、電気で走る車が当たり前前の時代にガソリンで走らなければ車じゃないと言っているのと同じです。軽音楽部は、軽音楽を通して社会や人間関係を学ぶ場であり、ロックスピリッツを学ぶ場ではありません。

3 ライブ本番を目的とせず、日々の練習を大事にする

練習の成果を発表する場がないと生徒のモチベーションが上がらない、人前で演奏することによって気がつくことがある……。それは正にその通りだと思います。目標となる「本番」を行うことはとても大事なことです。しかし、部活動は本来日々の活動で完結しているべきであり、



目的も確認項目も違います。本番という発表の場があるのであれば、当日までのタスクを自分たちでしっかりと作らせ、それをクリアしていつているのかを見守ることが重要です。

一方で、大会に傾倒しすぎることも注意が必要です。大会は、入賞すれば努力が認められたこととなり、負ければ次へのモチベーションとなります。

それがすでに目的なはずですが、部員全員での全体練習、パートごとの練習、バンドごとの練習をしつかりとセパレートして行い、音作りや楽器・機材知識を含めた「合奏」を磨くこと、ディスカッションしながら完成度を高めること……。部活動が学びの場になることに重きを置き、日々の練習にやりがいを見つけていけることで、ライブは初めて本来の意味を持ちます。発表の場を必要以上に多く作るのは、返って本当に学んで欲しいことがボヤけてしまう可能性があります。また、楽曲をまとめる練習とステージに立つことを想定した練習では

4 生徒を守る部活動に

バンドはエンターテインメントです。広い意味でのロック、ポピュラーミュージックを土台とする軽音楽部では、単に歌や

楽器の上達、合奏、楽曲創作……といった対自分な行為だけでなく、「人に伝える」「人に喜んでもらう」といった側面も持っています。そこに、ライブ、パフォーマンス、ステージング、衣装、メイクなどの見せる(魅せる)要素や、音源配布、動画サイトやSNSへの投稿、自主的なライブ活動といった行動やアピール、発信が生まれてきます。それらも社会勉強のうちであり、社会人としてのスキルを学ぶ機会ともなりますが、当然ながら危険も多くなります。

生徒は、学校から一步出たら無防備です。いたるところから「大人」の目が注がれ、良からぬ方向へ誘いをかけられます。楽器を持って街を歩いている高校生は、古いステレオタイプな人からすれば「不真面目な生徒」です。学校(顧問)の目の届かないところでの音楽活動はとても危険です。せめて、学校の管理下にある軽音楽部の生徒を「悪い大人」から守ることが顧問の役割です。

例えば、どんなに予防線を張っても、ライブハウスへの出入りはリスクが高すぎます。顧問を通さない活動、校長の許可のないイベント出場もありません。部活動に所属していながら「活動は個人の自由」というのは矛盾しています。何か問題が起これたらすべて学校の責任になり、廃部や休部といった最悪のケースも覚悟しなければいけなくなります。

同じく、SNSなどへの投稿も、個人のものや学校名を背負ったものはきちんと棲み分けをして、後者は責任者である顧問が管理するべきです。高校生にデ

ジタルタトゥーの怖さや著作権を尊重することの大事さ、学校や部活動といった組織の一員であることの重要性を教えることは、ネット社会となった現代だからこそ大事な、最も注視すべき部分です。

5 軽音楽部は「音楽部」でも「最先端の文化部」でもない

前の項目でも触れたように、軽音楽はエンターテインメントな側面を持つため世間から誤解を受けやすい音楽です。一般的に、クラシック音楽、吹奏楽、合唱、雅楽などの日本音楽は文化・伝統で、ポピュラーミュージックのジャズやロックは「軽」音楽と揶揄され軽んじられています。部活動としても同じ扱いを受けている学校も多いのではないのでしょうか。

しかし、軽音楽も音楽であることに変わりはありません。しかも、電気、電子楽器を使った新しい音楽であり、時代とともにコンピュータ、デジタル、インターネットといった最先端技術を取り込んだポップカルチャーです。近年の軽音楽部では、パソコンやタブレットでのDTMソフトを使った楽曲制作、音源制作、ミュージックビデオ制作といった創作活動も行う最先端の文化部です。漫画やアニメ、ゲームなどのように、日本が世界に誇るカルチャーの1つともいえる「けいおん」は、誤解を受けやすい立場だからこそ、部員、顧問の皆さんの理解ある言動が大切なのです。

文・辻伸介

レポート

部活動で楽曲制作を行う ことの有意義さ

特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会
副理事長 辻 伸介

秋晴れの穏やかな日となった12月5日、三重県四日市市文化会館において、「第36回全国高等学校文化連盟研究大会 三重大会」が開催されました。全国高文連研究大会とは、公益社団法人全国高等学校文化連盟（以下、全国高文連）主催の、各都道府県高（芸）文連関係者、全国専門関係者及び全国の文化部長顧問が一堂に会して、日頃の文化部長指導の成果や課題、組織運営について発表・研究協議するものです。毎回、開催地域の文化部長顧問による研究発表の他、講演、ワークショップなどが行われます。今回、NPO法人全国学校軽音楽部協会より私、辻伸介が軽音楽ワークショップの講師を担当しました。

文化部ならではの有益な大会

生徒の成果発表や交流を目的に行われる全国高等学校総合文化祭（総文祭）とは違い、教員や各都道府県高文連の情報交換がメインである研究大会は、文化部長顧問の文化部長顧問が一堂に会して、日頃の文化部長指導の成果や課題、組織運営について発表・研究協議するものです。毎回、開催地域の文化部長顧問による研究発表の他、講演、ワークショップなどが行われます。今回、NPO法人全国学校軽音楽部協会より私、辻伸介が軽音楽ワークショップの講師を担当しました。

活動の現在と未来を考える重要なイベントといえます。

今回の三重大会は、三重県演劇専門部による「そうだ、劇場を作ろう!」、岐阜県将棋専門部による「部活動を通して育てたいものは?」、静岡県書道専門部による「コロナ禍が教えてくれた大切なこと、これからのこと」、愛知県軽音楽専門部による「軽音楽部に期待される教育的意義」オリジナル曲制作という独自性に立脚して」という4つの実践発表と、それに伴う指導者研究会（分科会）が行われました。

第2ホールで行われた軽音楽ワークショップでは、楽曲創作（オリジナル曲作り）について解説し、参加者の皆さんに実際に曲作りを体験していただきました。軽音楽部で顧問をされている方々も含め60名ほどの参加があり、軽音楽部や部活動で楽曲創作を行うことへの興味、関心の高さが伺えます。

余談ですが、オープニングレセプションでは、三重県立桑名西高等学校吹奏楽部と三重県立神戸高等学校吹奏楽部による

合同演奏が行われました。三重県出身、三重県に關係の深い音楽家や作品をもとにアレンジされた楽曲の演奏は、文化部長らしいコラボレーションでも感動的でした。また、レセプションの司会進行を同じく三重県立神戸高等学校放送部の生徒が行ったり、大会の研



辻 伸介

NPO法人全国学校軽音楽部協会副理事長。ドラマー。アーティストのサポート、ディレクター、インストラクターとしての活動の他、元音楽専門学校主任講師及び学科長を歴任。著書に「Drum Book」「マンガでわかる!ロックな楽典」。

究紀要の表紙イラストを三重県立四日市高等学校の生徒が描くなど、文化部長ならではの演出も全国高文連という組織の有益さを感じさせるものでした。

楽曲創作とは

さて、軽音楽ワークショップでは、現在全国で多くの軽音楽部の生徒が取り組んでいる「楽曲制作」を体験していただきましたが、本来楽曲制作は「無から有を生む」非常にクリエイティブな作業であり、本格的に学ぼうとした場合は音楽大学や音楽専門学校への進学が必要となるものです。しかし、今回は生徒たちが普段どのように楽しみながら、また生む苦しみを味わいながら楽曲創作という経験をしているのかを知っていただくことが目的のため、音楽理論などの難しい話は基本的に省略し、気軽に取り組んでいただけるように進めました。

また、冒頭では音楽経験のない方や軽音楽部顧問ではない方のために、楽曲創作の概要を説明しました。楽曲創作は「作詞」「作曲」「編曲」の3つの要素から成り立っています。作詞とは、ポピュラーミュージックで重要なファクターとなる歌詞を作ることです。作曲とは、よく音楽全体を作ることと誤解されがちですが、著作権的には主となるメロディ（旋律）を作ることです。今回はこの2つを創作していただきました。

ちなみに、編曲とは作詞、作曲以外のすべての工程のことです。コード進行、テンポ、リズム（グルーヴ）、キー、曲

構成、使用楽器、各楽器パートフレーズ、コーラスフレーズ、各楽器のサウンドメイク、音量、ダイナミクス、キメ・ブレイク・シンコペーションなどの仕掛け、アーティキュレーション、トータルな世界観…など、歌詞とメロディという骨子に対して伴奏を肉付けしていくことの総称です。バンドでは、主にメンバー間でよく話し合われ、協議を重ねてまとめていく部分です。

創作していく順番に決まりはありません。場合によっては歌詞とメロディを同時に作っていくことや、楽曲の土台となるコード進行から考えることもあります。今回は、私の指示に則って作業を進めさせていただきました。

楽曲創作を実践

まずは、どんな楽曲にしようかとテーマを決めることから始め、次に作詞をしていきます。作詞は、国語的素養が活かされる部分ともいえます。内容や言葉のチョイス、言い回しなどは基本的に自由ですが、ポエムやエッセイ、ブログなどとは違うため、ブレス（息継ぎ）の位置、メロディとの関係による言葉の切れ目やイントネーションなどに考慮が必要です。作曲においては、決まったコード進行をもとにメロディを発想していく形にしました。今回用意したのは、1小節ずつC-G-A-Fというコードが繰り返される進行で、これは、キタニタツヤ／青のすみか、優里／ベテルギウス、米津玄師／Lemon、YOASOBI／アイドル、

「月刊 軽音楽部」 バックナンバーはこちら・・・



RADWIMPS／すずめ、イディナ・メナデル（松たか子）／レット・イト・ゴー、スピッツ／チェリー、ジャーニー／ドン・ストップ・ビリービン、ビートルズ／レット・イト・ビーなどでも使われている定番のコード進行で、ポップパンク進行と呼ばれています。

参加された皆さんには、ご自身のスマートフォンやタブレットに指定した無料音楽アプリ（Chordbot Lite）をダウンロードしていただき、前述のコード進行を作っ



て繰り返し、前回のコード進行を作った。そのコード進行を流しながら、鼻歌でラララとメロディを紡いだり、同じくダウンロードしたピアノのアプリを弾いて作曲していただくスタイルです。

参加された皆さんには、ぜひ今後とも続きを行っていただきたいと思います。生徒たちの苦悩の一片がさらに分かりになると幸いです。

ポイントとは、歌詞とメロディとの調整です。キャッチーな言葉を探しながらメロディに合うようにしなければなりません。慣れていたらつしやらない方は苦戦されたかもしれませんが、休憩時間中も奮闘されている方も多く、ワークショップ開催者として嬉しかったです。既存の音楽系部活動にはなかった「楽曲創作」というキーワードは、今大会で注目されたことの1つであつたと思います。

文化部活動への想い

今回、通常では参加できない全国高文連の研究大会にお声がけいただき、大変貴重な体験をさせていただきました。特に、各研究発表では今まで知らなかった世界に触れ、部活動：中でも文化部活動に対する顧問の皆さんのご努力と生徒への想いを感じることができました。印象に残った発表や言葉はたくさんあ

りますが、最も感じたことは文化部活動の意義です。中でも、演劇部の「脚本が選ばれることや大会で勝つためではなく、皆んなで集まれる場所を作ろう」「自己肯定をさせてあげることで、自信を持つて教室に入れるようになる」、将棋部の「部活動は、礼儀とマナー、自立自尊（技術ではなくメンタル）、人間力（応援される人になりなさい）を学ぶ場である」「普段の努力を1人で対処するため、自分を信じられるように」、書道部の「どんな時も、その時でしか味わえない感動がある」「厳しい状況下だからこそ甘い果実（成功）がある」といった考えや教えは、部活動だからこそ学べるとても大事なことだと思います。

そして、バンド活動を通して、作詞、



作曲、コード進行や各パートアレンジなどの創作活動をしている軽音楽部も、これからの日本に求められている人材育成につながります。部活動の中ではバンドメンバー同士で楽曲を共作していくことになるため、様々な意見やアイデアを試行錯誤しながらようやく1つの作品を作り上げる経験をしていきます。その中でコミュニケーション、チームワーク、クリエイティビティを高校時代に学ぶことは、社会に出てから大いに役立ちます。部活動の中で楽曲創作を行うことの意義をご想像いただければ幸いです。

最後になりますが、愛知県高文連、三重県高文連、文化庁の皆様には大変お世話になりました。ここに感謝の言葉を添えさせていただきます。

▲「月刊 軽音楽部」三重大会 特別号を会場で配布しました

軽音ちゃんねる

YouTube

出場バンドの演奏映像をYouTubeで公開中！

QRコードを読み取って、チェック！

2020年から最新の夏大会（2024年）まで、全国学校軽音楽部協会主催の大会に出場した583バンドの演奏映像を視聴できます。プロジェクターで動画を映し出したり、部のPAシステムで音声を大きく出力するなどして意見交換や検証を行うなど、部活動全体はもちろん、各バンドや個人でも、他校のバンドから学び、演奏技術やパフォーマンス、ステージでの振る舞いの参考に活用してください。

第15回

愛知県高等学校軽音楽大会

30 バンド

第5回

高等学校軽音楽コンテスト 関東大会

25 バンド

第8回

高等学校軽音楽コンテスト 近畿北陸大会

19 バンド

第10回

高等学校軽音楽コンテスト 中部大会

20 バンド

第1回

高等学校軽音楽文化祭 国際大会

8 バンド

特定非営利活動法人
全国学校軽音楽部協会
keionkyo.org



Event Calender

お問い合わせ：info@keionkyo.org TEL：045-913-0901

軽音学ぶセミナー

1月18日（土）	滋賀県	会場：滋賀県立野洲高等学校
1月25日（土）	京都府	会場：大谷高等学校
2月8日（土）	兵庫県	会場：兵庫県立兵庫高等学校

軽音合同演奏会

2月1日（土）会場：専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー（オリジナル曲限定）

その他

12月25日（水）第16回 愛知県高等学校軽音楽大会
 3月25日（火）第6回 高等学校軽音楽コンテスト関東大会（国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール）
 3月29日（土）第9回 高等学校軽音楽コンテスト近畿北陸大会（宇治市文化センター 大ホール）
 3月31日（月）第11回 高等学校軽音楽コンテスト中部大会（名古屋文理大学文化フォーラム（稲沢市民会館））

配布校リスト

全国の約4,800校の高等学校の中で軽音楽系の部活動がある2,042校のリストです。
「月刊 軽音楽部」は顧問あてに無料配布しています。

リストはこちら

役に立つオススメコンテンツ

バンド練習から校内ライブまで使える 音響&照明機材

バンド練習やライブを行うのに欠かせない音響や照明機材。練習環境や発表場所に適した機材を揃えることをお勧めします。

左のQRコードから記事を読むことができます

インタビューを終えて・・・

今月号では、愛知県高等学校文化連盟軽音楽専門部／愛知県高等学校軽音楽連盟の会長であり、愛知県立瀬戸工科高等学校校長の村松正敏先生にお話を伺いました。高等学校における部活動の意義や活動を通じて得られるもの、目指すべき軽音楽部の在り方についてお聞きしたところ、「部活動は仲間と様々なことを考え、行動し、学び、成長できる、かけがえのない時間である」というお話がありました。それを強く実感した出来事があります。

先日、オリジナル楽曲の「アレンジ講座」を都内で開催したのですが、バンドメンバーとオリジナル曲の構成を考えたり、歌詞を作ったり、「もっと良くするには、どうしたら良いだろう？」と振り返るのは、まさにかけがえのない時間です。それは試行錯誤の連続でしょうし、アイデアを出し合うのはクリエイティブな時間で、チームワークが欠かせません。それらの会話の中では、自分の意見や感じたことを伝えたり、相手の考えを聞き、尊重するなど、「主張と妥協」のやりとりがあり、自然とコミュニケーション能力を高めることができます。とあるセミナーでの1コマでしたが、改めて軽音楽部の持つ素晴らしさや部活動ならではの利点を実感した1日でした。

来春には「高等学校軽音楽コンテスト関東大会・近畿北陸大会・中部大会」が控えています。「今まで積み重ねてきた練習の成果をステージで存分に発揮できるか？」という力試しの場であり、出場する高校生は何度も練習を繰り返し、本番のステージに臨みます。部活動に真剣に取り組む姿勢は素晴らしいと、ぜひ一般の方々にも見ていただきたいと考えています。

さて、12月5日（木）に開催された「第36回 全国高等学校文化連盟研究大会三重大会」では、

▲仲間と試行錯誤し、かけがえのない時間を過ごしました

▲研究大会にて、当協会が軽音楽のワークショップを担当

分科会の「指導者研修会（軽音楽部）」を当協会が担当させていただきました。辻 副理事長が講師を務め、スマートフォンのアプリケーションを使った「オリジナル曲づくり」をレクチャー。4小節のコード進行を「共通ルール」とする以外は自由！ということで、オリジナルのメロディを鼻歌で作ってみたい、歌詞を一緒に考えたり、テンポを変えて曲調をアレンジするなど、軽音楽部の高校生が取り組んでいることを体験いただきました。ご参加いただいた先生方、関係者の皆様、ありがとうございました。

次号は11月25日（月）発行

CONCERT
STAFFRECORDING
ENGINEER

ACOUSTIC MEDIA DEPT.

CONCERT EVENT DEPT.

2025年度 八王子校に
ダンスパフォーマンス科新設!

It all begins here!

新ダンススタジオ完成!!
(八王子校)

DANCER

MUSICIAN

VOCALIST

MUSIC ARTIST DEPT.

コンサート・イベント科 職業実践専門課程

- コンサート制作コース
- コンサートPAコース
- コンサート照明コース
- コンサート舞台コース
- イベント企画コース

ミュージックアーティスト科 職業実践専門課程

- サウンドクリエイターコース
- ヴォーカリストコース
- プレイヤーコース

音響芸術科 職業実践専門課程

- レコーディングエンジニア専攻
- MAエンジニア専攻
- ラジオスタッフ専攻

ダンスパフォーマンス科 職業実践専門課程(蒲田校のみ)

- プロダンサー専攻
- バックダンサー専攻
- ダンス&ヴォーカル専攻
- コレオグラファー(振付)専攻
- ダンスインストラクター専攻
- テーマパークダンサー専攻

※2025年度 八王子校新設

日本工学院 ミュージックカレッジ

日本工学院専門学校

日本工学院八王子専門学校

☎0120-123-351 〒144-8655 東京都大田区西蒲田5-23-22 ☎0120-444-700 〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404-1

<https://www.neec.ac.jp/>

@nihonkougakuin

@neec_official

@nihonkogakuin

入学願書
受付中!ラジオ
の仕事制作職と技術職の
2つに分けられます

音楽やエンターテインメントに関する職業や業界は多岐に渡りますが、一体どんな世界なのでしょう。今回はラジオにまつわる仕事について、日本工学院専門学校/音響芸術科の古川(こがわ)先生に伺いました。

日本工学院専門学校/日本工学院八王子専門学校

ー ラジオにまつわる仕事全般について教えてください

古川: ラジオに関わる仕事は大きく分けると「制作職」と「技術職」という2つのカテゴリーに分かれます。

制作業務の役割としては、番組を作る上で全体を統括する「プロデューサー」やプロデューサーの指示の元で番組制作を指揮する「ディレクター」、ディレクターをアシスタントする「アシスタントディレクター」といった職種が挙げられます。これらの職種における仕事の内容としては、放送局や企業(番組を提供する会社)から依頼を受け、企画の立案からキャスティング、番組をスムーズに進行するための台本作りなどを行います。

一方の技術職では、リスナーが聴きやすいように音をミキシングする「ミキサー」の仕事があります。また、放送局において機材の管理や運用をする「送出・技術」という仕事もあり、機材の管理や運用を行う役割を担っています。

ー 入学前に、ある程度の知識は必要ですか?

古川: 入学前に「これが必要!」というものはありませんが、強いて言えば、多くのラジオ番組を聴いて、感性を磨いておきたいと思います。自分の好きなジャンルのラジオ番組だけを聴くのではなく、選り好みせずにラジオを聴くことで、多くの「気づき」が生まれます。

また、ラジオ番組だけではなく、映画やテレビ、コンサートやイベントなどに参加するのも勉強になります。多くの作品に関わることで、ラジオ番組制作のヒントになることも多くあると思いますので、常に興味や関心を持って過ごして欲しいと思います。

ー この仕事の楽しいところを教えてください

古川: 一番は自分の関わった番組が放送され、多くの方々からの反響があった時は達成感があります。また、ラジオ番組はテレビ番組と違って、出演者の方が本音でトークをすることが多くあるので、そこも面白いところだと思います。それから、「公開ラジオ収録」といったイベントもあるのですが、実際にお客さん(リスナー)が会場にいて、収録を聴いているお客さんの笑顔を見た時にも仕事へのやりがいを感じます。

ー この仕事の大変なところを教えてください

古川: 番組を制作する上で大変なところの1つに、出演者のスケジュールによって時間が左右されることが挙げられます。それによって業務時間が不定期になり、深夜まで収録作業が行われるような場面は大変なところかもしれません。

また、アイドル関係の番組制作では出演者の都合によって地方まで収録をしに行くことや、場合によってはコンサート会場の楽屋で、限られた時間の中で収録を実施するなど、臨機応変に対応できるスキルと行動力が必要不可欠になるため、「自分のペースで仕事がしたい!」という方には難しく感じる部分もあるかもしれません。

ー この仕事は、どんな人にオススメですか?

古川: 第一に、ラジオやテレビ番組が好きで人でしょうか。「好きこそ物の上手なれ」という言葉があるように、自分の好きなものには、どんな苦しいことがあったとしても、情熱を持って、最後まで取り組めると思います。

それから、「フットワークよく行動ができる人」「コミュニケーションを取ることがうまい人」も、この仕事に向いていると思います。先述の「仕事の大変なところ」でも言いましたが、収録を行う上で、地方への出張や不規則な時間帯での作業などが多い現場のため、何事においても

フットワークよく行動ができる人は強いです。

ー この仕事を続けるのに大切なことは何でしょうか?

古川: 1つ目は「発想力」が挙げられます。番組を制作する上で最初に行うのが、企画の立案です。新しく番組を制作する場合は「ターゲット層はどの年代なのか」「放送時間は何時頃か」「それらを踏まえ、出演者は誰にするのか」といったことを検討しながら番組制作を進めていくので、柔軟な発想力が必要になります。

2つ目は「コミュニケーション能力」です。テレビ番組と違い、少ないスタッフで制作していることが多いので、出演者や他のスタッフとの連携が必要不可欠です。このため、出演者との信頼関係やリスナーとの親密感が高くなるため、本人がプライベートな情報などを自ら放送することも、そのためです。誰とでも良好なコミュニケーションを取れるスキルが必要です。

3つ目は「フットワーク」です。収録場所や時間など、急に変更がかかる場合も多々あり、それに対応できる能力が必要です。震災などの緊急事態が起きた場合はテレビやインターネットよりも公共放送としての放送に対応することもあるため、臨機応変にフットワークよく行動できる力が求められます。



▲ FM yokohama の「Startline」の公開収録時の様子

エンタメ&クリエイティブの専門学校



VISUAL ARTS

東京 / 名古屋 / 大阪 / 福岡

ビジュアルアーツ・アカデミー

ACADEMY

Akademeia 21st Century



ミュージシャン
声優・俳優・タレント
ダンス・ダンスボーカル
ネットタレント・インフルエンサー
映像クリエイター(3DCG・VFX)
テレビ放送・映画スタッフ
コンサート・舞台スタッフ
レコーディングエンジニア
サウンドクリエイター
映像音響(MAエンジニア)
写真・デザイン
マスコミ出版
芸能マネージャー
特殊メイク

※地区によって教育分野が異なります

大学も専門学校も超える新たな学びの場



21世紀アカデメイア
Akademeia 21st Century

専門学校 東京ビジュアルアーツ・アカデミー
(2024年4月 専門学校東京ビジュアルアーツより校名変更)

専門学校 大阪ビジュアルアーツ・アカデミー
(2024年4月 ビジュアルアーツ専門学校より校名変更)

専門学校 名古屋ビジュアルアーツ・アカデミー
(2024年4月 名古屋ビジュアルアーツより校名変更)

専門学校 福岡ビジュアルアーツ・アカデミー
(2024年4月 専門学校九州ビジュアルアーツより校名変更)

映像音響
の仕事



専門学校大阪ビジュアルアーツ・アカデミー

相手の要望を汲み取り、 提案する仕事です

音楽やエンターテインメントにまつわる職業や業界は多岐に渡りますが、一体どんな世界なのでしょうか。今回は映像音響の仕事について、専門学校大阪ビジュアルアーツ・アカデミー／映像音響学科の青木 愛先生に伺いました。

ー 映像音響学科について教えてください

青木：本校には映像音響学科という学科があり、主に映像と音の両方を学ぶことができます。「映像」は動画の編集やモーション・グラフィックスなどにまつわるもの、「音響」は「MA(マルチオーディオ)」という音の仕上げの作業をはじめ、音楽編集や効果音などについて学びます。主に、仕上げの段階…ポストプロダクションと呼ばれる業界にまつわる分野で、テレビや映像制作の最終的な仕上げをメインに勉強する学科です。

基本的には、学科で学ぶことが就職先の業態や仕事になるケースが多いです。例えば、MAを担当するMAミキサーになったり、映像編集のエディターをはじめ、少し変わり種でいくと、アニメ系の就職先を選ぶ学生が多いので、効果音をつける「音響効果」や映像の仕上げ部分である「アニメ撮影」と呼ばれる仕事があるのですが、そういった分野に就く学生もいます。

ー 入学前に、ある程度の知識は必要ですか。高校時代にやっておいた方が良いことも教えてください

青木：本学科を目指す学生は未経験者が多く、授業を通じて必要なスキルを学んでいくので、特に入学前の必須スキルなどはありません。敢えて挙げるのであれば、映画や舞台を見に行ったり、アニメを見たり、外へ遊びに行くなどして刺激をたくさん得て、自分の「引き出し」を増やす習慣をつけておくとう良いと思います。そういう引き出しを持っていないと、作品づくりがスムーズに進まないことがあるんです。

例えば、「ライブハウスのシーンを作ってください」という依頼を受けた場合、実際にライブハウスへ行ったことがないと、なかなかその音を再現できないものですが、一度でもライブ

ハウスに足を運んだことがあれば、「こんな感じだったよな～」という実体験を元に作業を進めることができると思います。

ー 映像編集やMAミキサーの仕事の楽しいところや、やりがいを感じる瞬間を教えてください

青木：MAの仕事はパソコンを駆使して、黙々と作業をするようなイメージがあると思うのですが、意外とそうでもないんです。声優さんやナレーターさんをはじめ、監督や音響効果の担当者さん、クライアントの担当者さんなど、いろいろな人と関わって、1つの作品を作っていくので、「あーでもない、こーでもない」と意見交換をしながら進めていくのが、楽しいと感じる瞬間の1つだと思います。

ー どんな人にオススメですか?

青木：人に喜んでもらえるのが好きな人に向いていると思います。パソコンに向かって、一人で黙々と作業をするというよりも、お客さんと一緒に仕上げていく仕事なので、自分の「我」を強く出すのではなく、相手の要望を汲み取らなければいけません。お客さんにはどんな要望があって、「こんな感じで進めたら、望み通りの作品が作れるんじゃないかな…?」というのを想像したり、汲み取れる人にオススメの仕事です。私自身は、この仕事を「究極の接客業」だと思っているので、接客に向いている人が良いと思います。

ー これらの仕事を続けるのに大切なことは何でしょうか?

青木：一番大切なのは、映像や音響が「好き」という気持ちだと思います。作業をする大前提として、映像や音を作ったり、編集したりするのが好きじゃないと大変な仕事です。段々と「嫌

だなあ…」とか「しんどいなあ…」という気持ちになりそうな時、「好き」という気持ちがないと、こだわりを持って仕事をするのができなくなってしまうので、仕事を続ける上で最も根底にあるのは「(この仕事)が好き」という部分だと考えています。

2つ目は、コミュニケーション能力です。いろいろな人と携わりながら進めていく仕事なので、自分の意見を伝えたり、相手の要望を聞き取るといった最低限のコミュニケーション能力が必要だと思います。

3つ目は、これは私が大切にしていることでもあるのですが、聞き耳を立てる癖をつけておくとう良いと思います。対面で仕事をするのではなく、スタジオの構造上、パソコンを前にして、自分の真後ろに監督やクライアントの担当者さんがいる状態になるので、会話をする際は振り返らなければいけません。自分自身はパソコンの画面を見ながら作業をしているのですが、「監督たちが後ろで何か言っているなあ…」という聞き耳を立てながら、「こういうことですよね?」という感じで提案ができると、「あ、こっちの話を聞いてくれていたんだ!」という流れになるので、仕事に没頭するのではなく、周りに気を配れるようになるとう良いと思います。



▲授業を通じて、映像や音楽の編集作業を学びます